

「災害に強く安心して生活できるまちづくり」に向けて



広島市消防局長 齊藤 浩

平成30年6月29日に日本の南で発生した台風第7号は、7月4日に日本海中部で温帯低気圧に変わりましたが、この低気圧からのびる梅雨前線が西日本に停滞し、また、暖かく湿った空気が流れ込んだため、広島県では6日昼過ぎから7日朝にかけて大雨となりました。

この大雨の影響で、広島市並びに本市が消防事務を受託する安芸郡の海田町、熊野町及び坂町においては土砂災害、河川の氾濫、浸水等により多数の尊い命が失われました。

ここに改めて、犠牲となられた方々に対し心から哀悼の意を表しますとともに、被災された多くの皆様に心からお見舞いを申し上げます。

さて、この度の災害においては、発災直後から、7月31日までの長期間にわたり、県内消防応援隊や緊急消防援助隊の派遣を受け、猛暑日が続く極めて厳しい環境の中、懸命の検索、救助活動に御尽力いただきました。

お陰をもちまして、多くの方々の救出や、行方不明となられていた方々の発見に至るとともに、連日にわたり激励のお言葉や多大なお心遣いをいただいたところであり、こうした皆様からの御支援、御協力は大変心強く、私どもの活動の大きな支えとなりました。

改めて、消防の“絆”の強さを感じた次第であり、この紙面をお借りし、深く感謝申し上げます。

現在、本市では、国や県、関係機関等の協力を得ながら、被災地での復旧、そして、被災された住民の方々に一日でも早く、被災前の生活に戻っていただけるよう生活再建に向けた取組を進めております。

また、災害対策の再構築等に向け、避難対策等検証会議を開催し、今回の豪雨災害における、避難情報の発令・伝達を受けた側の住民の避難行動と地域住民の置かれた状況や問題意識との関連性について検証を行い、基礎自治体として地域住民を確実な避難行動につなげるための方策等を検討しているところです。

広島市消防局では、この度の災害を含め、この20年の間に3度も大規模な豪雨災害を経験しました。これらの災害による教訓を踏まえ、これからも頻発が予想される大規模自然災害に対し、総務省消防庁をはじめとする消防機関の皆様はもとより、防災機関との連携をより一層強固なものとし、的確に対応してまいります。

